あの先輩、三コうえだよ

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA　顧問　教育アドバイザー
張江　幸男

滞在期間の長短にかかわらす、海外に住む子ども達への日本語の教育は保護者にとって大きな問題です。
このコラムでは、海外・帰国子女教育の大ベテランが「海外での日本語教育」へのアドバイスを語ります。

【1】前号の解答

はなはだ失礼なクイズを出しましたが、ご家族で話題にしていただければ幸いです。

① 五臓六腑（ごぞうろっぷ）・・・五臓は、肺臓・心臓・肝臓・腎臓・脾臓。死ぬと同時に溶けてなくなる膵臓は、むかしは確認できなかったらしい。
六腑は、大腸・小腸・胃・胆・膀胱・三焦〔排泄をつかさどる〕。漢方医学でいわれた言葉。

② 三種の神器（さんしゅのじんぎ）・・・皇位の標識として歴代の天皇が受け継いできたという三つの宝物。八咫鏡（やたのかがみ）・天叢雲剣（あまのむらくものつるぎ）・八尺瓊勾玉（やさかのまがたま）

③ 六法全書の六法・・・憲法・民法・刑法・商法・民事訴訟法・刑事訴訟法。

④ 七草粥の七草・・・春の七草は七草粥として食されてきました。せり（芹）・なづな（ぺんぺん草）・ごぎょう（母子草）・はこべら（繁縷）・ほとけのざ（田平子）・すずな（蕪）・すずしろ（大根）。
春の七草 命の喜びと健康への願いを籠めて一月七日に食べられます。早朝、一家の主婦は、「七草、なづな唐土の鳥が、日本の国に渡らぬうちに」と口ずさみながら、まな板の上で七草を刻みます。家族は其の音を聞きながら起床し、健康を祈って七日の膳を囲みます。唐土の鳥とは、疫病をもたらす大陸からの渡り鳥と考えられていて、それが来ないうちに打ち払っておこうという意味でした。長い冬に閉じ込められてひっそりと地下に眠っていた生きとし生けるものが一斉に活動を始め、命を謳歌する春。穀物や根菜など保存の利く食材で、一冬を過ごし、やっと芽吹いた青野菜を食べるのは、栄養学的にも意味のあるものでした。食材の保存法が発達した今では、一笑に付されそうですが、昔の人々の自然にたいする敬虔な想いをお子様たちにも話してやってください。

⑤ 秋の七草・・・山上憶良が「秋の野に咲きたる花をおよび折り かきかぞふれば七種の花」「萩の花・尾花（すすき）・葛花・撫子の花・女郎花（おみなえし）・また藤袴（ふじばかま）・あさがおの花（桔梗の異名）」と詠んだ。

⑥ 七福神・・・恵比寿・大黒・毘沙門天・弁天・福禄寿・寿老人・布袋。

【2】イッコに泣く

ある商事会社の若手社員が、帰り際に焼き鳥屋でいっぱい飲みながらボヤいていました。大学のラグービー部の後輩に入社試験を頼まれました。成績も上位ですし、部でも対抗戦で活躍していた男でしたので自信を持って人事担当者に頼んでおきました。試験では面接まで行ったのですが落とされてしまいました。理由は面接で、紹介してくれた先輩のことを「加藤さんはサンコ先輩です」と、つい日頃友人との会話で使っていた○ッコが出てしまったのです。

恭子さんの場合は、もっとドラマチックでした。友人からもらった歌舞伎座の桟敷席に座った。となりの青年に声を掛けられ、付き合いがはじまった。何回かの観劇のあと、青年の母と一緒に「狐忠信」をみた。一緒に食事をするために観劇を中座することになった。京子さんはうっかり「もうイッコ〔一幕〕観たいですね」と言ってしまった。青年の母親の表情が急激に変わった。このラブドラマは消えた。

前号に続き助数詞をみていきましょう。

【3】意味を大事にして数えるもの〔前号に続く〕

① 一畳（いちじょう）・・・畳の数え方。一枚ともいう。

② 一炬（いっきょ）・・・炬燵の数え方。

③ 一服（いっぷく）・・・一回に飲む薬包の数え方から、お茶や、タバコを飲む度数をいうようになり、そこから「ひとやすみ」することも言うようになった。

④ 一組（ひとくみ）・・・1、座布団 5 枚で。2、布団：掛け布団 2 枚・敷き布団 2 枚。3、和食器 5 個。4、洋食器 6 枚。

【4】二つで一つのもの

① 反物　一疋（いっぴき）・・・反物二反でいっぴき。二反で着物と羽織が出来る。これで一疋なのです。

② 幕　二張りで一帖（いちじょう）。

③ 屏風　二架で一双〔隻〕。二つ集まってはじめて用を足す一組を双〔隻〕で数えます。さて、「隻」は二つで用を足すものの一方で数えるときにも用います。例えば「隻眼」は片目のことです。